

様式1（介護ロボット等モニター調査事業 資金交付申請書）

平成27年8月20日

公益財団法人テクノエイド協会 殿

（申請者）

〒155-0033

住所 東京都世田谷区代田6-8-26-1F

事業者名 株式会社アートデータ

担当者所属 世田谷R&Dセンター

担当者名 鈴木 渚

電話番号 03-5790-5300

電子メールアドレス art@artdata.co.jp

介護ロボット等モニター調査事業 資金交付申請書

貴法人が福祉用具・介護ロボット実用化支援事業の一環として行う「介護ロボット等モニター調査事業」について、下記の書類を添付して申請します。

記

1. 介護ロボット等モニター調査計画書（別紙）
2. 会社概要（任意様式）

（本書類の取り扱い等について）

- ご提出いただく「モニター調査計画書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングのために公開いたします。公開可能な範囲において、できる限り記載してください。
- 「モニター調査計画書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングに際して、インターネット等を通じて登録協力施設等へ情報提供します。
- 依頼する案件について、モニター調査に協力いただける介護施設又は団体等が現れない場合には、実施できない場合もあることを予めご承知置きください。

(別紙)

平成27年8月20日

介護ロボット等モニター調査計画書

1. 申請者の概要

事業者名	株式会社アートデータ	
担当者名	鈴木 渚	
担当者連絡先	住所	〒155-0033 東京都世田谷区代田6-8-26-1F
	電話	03-5790-5300
	電子メールアドレス	art@artdata.co.jp
主たる業務	見守りサービス事業・介護機器開発販売	
主要な製品	見守り用センサ装置、ナースコール	
希望する施設等の種類・職種等	・サービス付高齢者住宅 ・訪問介護ステーション ・ケアハウス ・製薬会社 ・医療法人・研究所など	
希望するエリア	東京都・千葉県・神奈川県・埼玉県などの関東圏	
その他	モニター調査期間：服薬者ひとりにつき4週間以内（装置使用時・装置不使用時をそれぞれ10名で調査予定）	

2. 申請機器の概要

機器の名称（仮称）	ネットワーク型服薬ディスペンサ
機器の概要 （写真添付）	<p>1. 主な対象者 長期服薬者で身の回りのことができる自立者</p> <p>2. 目的 実環境において、服薬履歴が本装置と遠隔地の双方で記録され、装置使用時と不使用時の飲み忘れ状況が調査確認できることを目的とします。</p> <p>3. 機器概要 外形寸法：（カレンダー）570×410×16mm （制御ボックス）200×230×55mm 重 量：（カレンダー）1200 g （制御ボックス）700 g 電 源：AC アダプタ入力 100V/出力 12V（内部 DC5V） ポケット：薬ケース用 28 ポケット 1日4回1週間分 消費電流：1A 以下 使用温度：0～40℃</p>

表示部：制御ボックス側、服薬表示 28LED/Wi-Fi 発信表示 1LED
 管理サーバ：弊社に設置して服薬履歴を受信

4. 写真



(カレンダー)



(制御ボックス)



(希望者のみカメラ)

5. モニター調査のスケジュール（4週間以内）

	開始			4週間以内
期間	モニタ調査 開始前	装置導入前 1～2週間	装置導入後 1～2週間	モニタ調査 終了
内容	事前調査 回答	1週間毎に 支援者が訪問。 調査用紙に記入	1週間毎に 支援者が訪問。 調査用紙に記入	アンケート 回答

- ① モニター調査開始前…インフォームドコンセントを行います。服薬者と支援者は事前調査用紙に回答していただきます。
- ② 装置導入前…通信機能のない薬カレンダーを提供するので、1週間分の薬を配置して使用し、1週間毎に支援者が服薬者宅を訪問し、残薬を指定調査用紙に記入していただきます。
- ③ 装置導入後…通信機能がある装置を設置します。装置に1週間分の薬を配置します。1週間毎に支援者が服薬者宅を訪問し、制御ボックスのLED確認、カレンダーの残薬確認、管理サーバからのメール受信状況確認、メール受信後の対応確認していただきます。
- ④ モニター調査終了…服薬者と支援者はアンケートに回答していただきます。

現在の開発状況と課題

機器に関するリスクアセスメント（安全性の評価と確保対策）

<リスクの見積りを5段階で設定した場合>

- ・電気的危険度： 1（12V以下の電圧制御で安全）
- ・取り出し作業： 3（所定の日時から取り出す）
- ・音声聞き取り度： 1（肉声ガイド補助機能）
- ・薬ケース封入作業： 4（処方通りに薬を仕分けする）
- ・磁気による影響： 2（磁気カードのデータ消失に注意）
- ・設置環境場所： 1（壁掛け式で邪魔にならない）

	計 12 点	
	○安全性の評価は12点と低くひとり住まいでも利用できます。	
	リスク度：12点/30点中	
	加算法（点）	リスク
	サポート	
25～30	高	付き添いが必要となる
15～24	中	1週間に数回確認する程度
14未満	低	ひとり住まいでも利用可能
<p>確保対策：モニター調査期間中でも利用実績が遠隔で判断でき、かつ薬の入替で定期訪問するのでリスクは更に低くなります。</p>		
<p>現在の開発に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬は、指定の小型ケースに処方箋に従って、1回ずつ分けて、薬カレンダーの各ポケットに配置する必要があります。または、それが行える支援者がいることが条件になります。 ・外出した場合には、服薬の実績は「飲み忘れ」となるので後日申告修正が必要となります。 		

3. モニター調査の内容（お願いしたい内容をできるだけ具体的に記載してください。）

<p>1. 対象者の選定についてのお願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 身の回りのことは自分でできる生活自立者で、長期に服薬をしている人 ② 服薬の飲み忘れが多い服薬者で、残薬を減らしたいと考えている本人と家族 ③ この装置をテストで使用してみたい調剤師、医師、施設関係者等 <p>2. 支援者・支援体制が必要となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 服薬者は、家族が同居しているまたは近くにヘルパーや施設関係者などの支援者がいる ② 薬局からもらった薬を毎週配置できる（薬剤師・家族・ヘルパー）支援者がいる ③ 薬の配置の際に、カレンダーの残薬確認、制御ボックスの表示ランプ確認、メール受信確認を用紙に沿って記録できる支援者がいること ④ 管理サーバからのメール通知で、飲み忘れ時に電話や訪問で服薬を促せること ⑤ 使用するスマートフォンについては、服薬者または支援者側で準備が可能であること。機種が合わない場合には、貸与相談します。 <p>3. アンケート・調査への協力（対象：服薬者と支援者）</p> <p>モニター調査開始前、装置導入前、装置導入後、モニター調査終了後にアンケート記入を数回していただきます。</p>

会社概要

会社名：株式会社アートデータ（英文: ArtData Corporation）
電話：03-5790-5300（代表） F A X：03-5454-4800
U R L：http://www.artdata.co.jp
設立：1990年11月28日
資本金：資本金9,500万円
代表者：代表取締役 小林 明夫（早稲田大学客員研究員歴任）
所在地：本社：東京都世田谷区北沢2丁目40-22
世田谷R&Dセンター：東京都世田谷区代田6丁目8-26-1F

- 事業内容：
- システム開発事業
 - 生体計測センサー装置の開発
 - 安否確認システムの開発販売
 - 徘徊感知探索機器の開発
 - 防災地震装置の開発販売
 - ナースコールシステム開発
 - データベース開発
 - 電子出版事業
 - インターネット用語辞典(主婦と生活社)
 - 海外ホームページ(講談社)
 - 最新ホームページ活用事典(実業之日本社)
 - 目からウロコのインターネット入門(主婦と生活社)
 - 防災用地震装置開発販売
 - 地震測定用ソフト開発
 - 緊急地震速報装置開発

取引先会社： 全国社会福祉協議会 日本医療法人協会 全国教育委員会
NTT東海 全国痴呆性高齢者グループホーム協会
株式会社インプレス 東京急行電鉄株式会社
株式会社ソニー 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社 東京大学生産技術研究所

所属団体： 東京商工会議所会員 ITヘルスケア学会
アントレプレナーカレッジ社長会 東京都中小企業振興公社ナビゲータ制度支援
一般第二種電気通信事業主

- 催事・発表会：
- 関東経済産業省局長賞受賞
体動検知センサユニット(TAISコード2015年4月認定)
 - 東京都「経営革新計画事業」承認(2014年6月15日)
 - 大前研一 Business Japan Open で介護システムが最優秀となる
第6回ビジネスジャパンオープン最終審査で審査員賞のBJOトロフィーを受賞
 - 日刊工業新聞『地震速報と警報放送を受信』(2012年6月4日)
緊急地震速報を放送設備に連動させ通知を行う「からくり地震時計」の紹介
 - 日経流通新聞 MJ『置き時計が地震情報を受信』(2012年6月20日)
新製品からくり地震時計(AQ-404E)の紹介
 - 『日本を明るく元気にする“よい仕事おこし”フェア』(2012年11月1日)
城南信用金庫様主催で東京ドームにて開催。介護用品を出展。
 - NHK「首都圏ネットワーク」センサーを利用した安否確認システムの紹介
 - NHK「くらしと経済」生体センサーを利用し遠隔地で見守り介護
 - NHK「生活ほっとモーニング」センサーを利用し遠隔地で見守り介護紹介
 - テレビ東京「ワールトビジネスサテライト」警備会社と連携で安否確認事業。各種センサー紹介
 - 日刊工業新聞『センサーで介護手助け』
センサー技術を生かして高齢化社会へ対応
 - 日本経済新聞『高齢者の安否/見守りお任せ』
センサーを利用し安否情報を遠隔通知
 - 読売新聞『高齢者見守ります』
離れた家族に自動メール送信の紹介
 - 京都新聞『IT駆使 安否確認ビジネス急成長』
家族の代わりに各種センサーを用いて安否確認